

願い実現へ、新たな風を起すとき

——5・16全国青年大集会の成功へ力をあわせよう

2010年2月13日 民青同盟中央常任委員会

「悩んでいるのは自分だけじゃないと思えた」「一人のヒーローではなく、みんなの力で社会はかえられるものだと思った」——4600人が集まり、連帯のきずな、たたかうことへの勇氣、未来への確かな希望をひろげた2008年10月5日の「全国青年大集会2008」。今年5月16日、再び青年は「人間らしく働きたい!」という無数の叫びをもって明治公園に集い、新たなたたかいと仲間の輪をひろげるため声をあげます。「全国青年大集会2010」の歴史的成功へ、多くの青年と力を合わせ、集会にむかう運動と参加をひろげにひろげることを中心からよびかけます。

## 1、かつてなく切実な願い、政治の激動のもとで迎える青年大集会

全国青年大集会にむけて運動をひろげ、多くの青年で集まり、声をあげることが、どんな意味をもっているでしょうか。

何より、かつてないほど切実になっている「まともに生活できる仕事を」「人間らしく働きたい」という願いをもちより、一刻も早い青年の苦しみの打開へ力をつくす集会です。この間、空前の雇用破壊と貧困が青年をおそい、失業率は過去最悪水準、就職も「超氷河期」と言われる事態がひろがっています。年末年始に各地で行われた派遣村や、政府がおこなった「公設派遣村」にも多くの青年が訪れています。

千葉の「派遣村」にたどりついた26歳の青年は、同居していた叔父が失業し、その叔父にお金をせびられるようになったため家を飛び出し、両親にも頼れずに、路上やネットカフェ、マクドナルドやきれいなトイレを探して寝泊りしていました。非正規やホームレスの青年だけではありません。「上司から『できていない』『合理的に考えて、あなたやめたら』とパワハラをうけ、家にかえると涙が止まらない」「お母さんが体調を崩して働けなくなり、高校も退学して自分がアルバイトを4つかけもちしている」——正規も非正規も、学生・高校生も、みんな苦しめられています。しかも、「仕事が見つからないのは自分に能力がないから」「人に頼るなんて甘えている」などの自己責任論によって、「声を出せない」「青年もたくさんいます。だからこそ、切実な願いをもった青年どうしが集まること自体がとても大切です。「悩んでいるのは一人じゃない」「みんなが社会をかえていこう」——しんどかった思い、今の仕事やくらし、将来への「夢と現実」を語りあい、青年の願いを大きくアピールするときです。

これまで5回にわたる青年大集会と草の根の運動、数々の宣伝や青年との対話は、「若者の『使い捨て』はやめるべきだ」という強い世論をつくりだし、派遣労働の規制緩和からの転換、公立高校授業料無償化などの流れをつくりだす上で大きな力を発揮してきました。青年の「この現実をかえたい」という思いは、昨年の総選挙で自公政権にピリオドを打ち、新しい歴史のページをひらきました。その力は今も政治を前向きにうごかす力となり、部分的ではあっても要求を実現できる条件をつくりだしています。

一方で、青年をさんざん苦しめてきた「大企業中心」の政治が問われています。政府が検討している派遣法改正では、製造業派遣の禁止については「常定型派遣」を例外にし、登録型派遣の禁止については「専門26業務」を外すなど、財界の抵抗に屈した重大な「抜け穴」があります。日本共産党の志位委員長は、2月8日の国会質問で労働者の実態をつきつけ、「大企業に責任を果たさせよ」「真に実効ある派遣法抜本改正を」と迫り、鳩山首相が専門業務の「見直し」を表明するなど、現実政治をうごかしています。

この集会は、「不況だから仕方ない」などの思いを抱く青年、「こんな社会でいいのか」「どうすれば変わるのか」と模索する青年に、「大企業が社会的責任を果たせば雇用と暮らしは守れる」「声をあげれば政治はうごかせる」という展望と確信をひろげるものになります。そして集会をめざす活動のすべてが、7月の参議院選挙で政治をおもとから転換する力にもなります。

集会をめざす運動にとりくみ、願い実現への新しい風を巻き起こし、政治をうごかすときです。

## 2、集会成功へ、力をあわせて運動と参加をひろげよう

集会開催の知らせを聞いて、「かえていく仲間がたくさんいるんだって集会で実感したい」「今度は青年の声をいっばいもっていききたい」など、集会への期待や意欲がひろがっています。その思いを運動の具体化と集会参加にどんどんつなげていきま

しよう。前回は上回る規模の運動と参加での集会成功をめざし、以下のとりくみをひろげましょう。

(1) 同盟員・青年の実態の交流、学習を大切に、「自分たちの集会」に

一昨年の集会のときにはなかった新たな青年の苦しみがあるだけに、同盟員自身や青年の実態、生きづらさを「わかったもの」にせざリアルにつかみ、「笑顔」の裏にある不安や悩みに気づき、「自分たちの集会」にしていくことが大切です。班会議や「つどい」での交流と学習を重視し、アンケートで、仕事と暮らしのグチや悩み、仕事のやりがいや「こんな仕事につきたい」「こういう働き方だったら」という思いを語りあい、一人ひとりにとって集会在どんな意味や魅力をもっているのかを交流しましょう。志位委員長の質問や「民青新聞」、08年の集会DVDなどを活用して、生きづらさのおおもとと打開の展望を学び、「自分の努力が足りない」などの思いや行動へのためらいを一步一步乗り越えながらとりくみましょう。

(2) ひろい青年と対話し、ともに参加する集会に――5万人実態黒書づくりにとりくもう

青年の実態をひろく深くつかんでこそ、「雇用と暮らしを守れ」と政府や自治体に新鮮に鋭くせまることができます。第34回大会決議がよびかけた『5万人の青年の声を国会へ！全国青年実態黒書』をつくって国会に持っていきましょう。

一回一回の宣伝、一人ひとりとの対話、苦しむ青年への一声は、青年の命と暮らしを守り、新しい人生への一步を励ます力をもっています。共感・連帯の力を發揮し、一人でも多くの青年に、実態を聞くだけでなく「いっしょに集会に行こう」「ともにひどい現実をかえていこう」とよびかけていきましょう。

また、結びついた青年との出会いをその場だけにせず、一人ひとりを大切にし、いっしょに成長し、希望をひろげるには、民青同盟の仲間に加わってもらうことが一番です。仲間が増えれば願いを実現する力も大きくなります。仲間を迎えながら集会へ向かい、運動のなかで地区委員会の再建・発展の道をきりひらきましょう。

●『青年に春を！政治に要求実現の風を！全国いっせい行動』にとりくもう

年度末、「派遣切り」や正社員の解雇、就職の悩み、学費・入学金の支払いの困難などがふきだす中で、たくさん青年とながることが大事です。そこで3月20日(土)～26日(金)の一週間、『青年に春を！政治に要求実現の風を！全国いっせい行動』をよびかけます。すべての県・地域で、多彩な「つどい」や「お帰りなさい宣伝」などにとりくみ、青年との対話・交流を思い切ってひろげましょう。

(3) 労働組合、団体との共同をひろげ、実行委員会の結成・参加を

職種や分野の違いをこえて青年が手をつなぎ、互いの要求を自らの要求として連帯してこそ、社会をうごかし、「うちの業界はこれが当たり前」という現実をかえていくこともできます。県・地区(地域)で、労働組合や団体との共同をひろげ、実行委員会を結成し、積極的に参加しましょう。また、日本共産党の支部や地区委員会、議員団と協力してつどいや宣伝にとりくみましょう。

以上